

京都府流域下水道事業経営審議会第4回調査部会（開催結果）

- 1 日 時 令和6年3月26日（火） 午後1時30分～午後3時15分
- 2 場 所 ハートンホテル京都 嵐山の間
- 3 出席者 委 員 田中部会長、中筋委員、藤木委員（3名中3名出席）
宇治市（参考人） 山田上下水道部長、塚本下水道計画課長 他
京都府 西村建設交通部技監、長谷川水環境対策課長、高橋水環境対策課参事、
岸田流域下水道事務所長 他

4 結果概要

- 水位校正值から推定される長期間での流量計測誤差に偏りはほとんどなく、特定の期間だけを流量補正し、負担金を見直すことは合理的とはいえない
- 今回のような疑念の再発を防止するための改善策については、市町への流量計測情報の提供方法や、機器更新時に今より高精度な流量計を導入する可能性の検討等を行うことで、流量計測の信頼性を高める取組や無収水量対策に係る取組を府・市町共同で進めてはどうか
- 第5回部会では、改善策に係る今後の方向性を議論し、これまでの議論を含めてとりまとめる

5 主な委員意見

- ・ 流量計の水位校正值は正負の両方があるが、長期間では相殺されているため、特定の期間だけを補正するのは大変ではないか。
- ・ 流量計測値を府と市町の間で適宜共有する仕組みづくりを行うことで、異常に早く気付くことができるのではないか。
- ・ 市町の有収汚水量と流量計測値を継続的にモニタリングした結果を早めに比較できるようにすることで、公共下水道側又は流量計どちらに起因して異常が生じているのか、気付くことがあるのではないか。
- ・ より正確な計測のため流量計の点検回数を増やすことも理解できるが、コストが掛かるので行政での話し合いが必要である。
- ・ 流量計の点検頻度について、費用面から、異常の疑いがある流量計だけを追加点検するという考え方もある。
- ・ 機器更新に合わせた流量計の精度向上を検討してはどうか。